

令和元年度 授業改善推進プラン全体計画

<p><b>【法的根拠】</b>                  日本国憲法 教育理念                  教育基本法 教育の目的                  学校教育法 学校教育の目的                  学習指導要領 教育内容                  小平市教育振興基本計画                  教育目標</p>	<p><b>学校の教育目標</b>  <b>「よく考え、やさしく、元気な鈴木の子」</b>                  《よく考える子》○基礎・基本の習得とそれを活用する力を身に付け、自分の考えをもち、判断し、行動できる子ども                  《やさしい子》○自他の生命を尊重し、共に生きる豊かな心をもつ子ども                  《元気な子》○心身ともに健康で粘り強くやり抜く子ども</p>	<p><b>【社会からの要請等】</b>                  保護者の要望                  [保護者アンケート等]                  地域社会の願い                  [学校評価アンケート等]</p>
--	---	--

**各教科の指導の重点**

**○基礎・基本の習得とその活用をとおして、思考力、判断力、表現力をはぐくむ**

- 週2回の朝学習「鈴木タイム」(モジュール)では、国語の文字に関する事項の基礎的・基本的な内容の定着を図る。
- 補習教室「ベーシックタイム」(年8回土曜授業日45分間)では、算数の補充的・発展的な学習を個に応じた指導する。
- 算数は、3年以上「基本コース」「基本・発展コース」「発展コース」の習熟度別指導を実施する。但し、単学級は「基本コース」「基本・発展コース」とする。
- 学習支援者を積極的に活用し、個に応じた指導を充実させる。

**○言語環境の整備と言語活動の充実に努め、言語に関する能力の育成を図る**

- 書く活動を日常的に取り入れ、書くことの能力を育てる。
- 毎週1回、朝読書の時間を設定し読書活動の充実を図る。
- 学期に1回の読書旬間を設ける。また、目標をもって読書し、日常的に読書に親しむよう「読書ファイル・カード」の活用などを行う。
- 場に応じたあいさつや適切な言葉遣いができるようにする。
- 国語辞典を常に傍らに置き、分からない言葉を調べ、語彙を増やしていく辞書引き学習の習慣を確立させる。

**○学習環境を整備し、児童の学習習慣を確立する**

- 学校全体で、学習ルールの徹底を図る。併せて、教育環境を整備、充実させ、学習する環境を整える。
- 児童に考え分かる喜びを実感させ、学ぶ意欲を育み家庭と連携を図りながら、学年×10分の家庭学習を定着させる。
- 個の教育ニーズに応えるように教材の工夫、指導の工夫改善を行い、ユニバーサルデザインの考えに基づいた授業を行う。
- 学校支援コーディネーターと連携し、地域の人材を活用した体験的な活動を通じた実感の伴う学習を実践する。

**○生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎を培う**

- 体力テストの結果分析に基づく授業の改善・充実を図る。併せて健康に関する学習を実施する。
- マラソン旬間、ピョンピョン(なわとび)旬間を設定し、体力向上に向けた全校的な取り組みを充実させる。
- 学級ごとに体力向上に向けた一実践を設定し、積極的に取り組む。

**学校の教育目標を達成するための基本方針**

**【確かな学力の向上】**

- 東京ベーシック・ドリルの活用
- 「鈴木タイム」(モジュール)の設定
- 「ベーシックタイム」(土曜授業)の設定
- 全学級にICT機器の設置、積極的な活用
- 読書の習慣化
- 豊かな言語活動の充実
- 校内研究主題「進んで外国語活動に取り組む児童を育てる指導の工夫～評価を活用させたActivityの充実」明確な評価基準をもち、児童の学習をさらに深めることを追究していく授業研究の実施

**【豊かな心の育成】**

- 人権尊重、生命尊重の精神を培う教育の推進
- いじめ防止授業の実施
- 他人を思いやる心や感動する心の育成

**【健やかな体の育成】**

- 体力テストの結果に基づいた体育朝会(オレピック)の実施
- 体育活動の充実
- 食育の推進
- 健康・安全教育の推進

**【自立心の育成】**

- 異学年異学級交流(たてわり班活動)を通じた望ましい人間関係の形成
- 自己肯定感、自己有用感の醸成
- 安全指導を軸にした児童自身の危険回避能力の育成
- 特別支援教育の視点に立った教育環境整備

**【郷土を愛する心の育成】**

- 保護者・地域との連携強化
- あおぞら福祉センターとの連携
- 地域の高齢者、障がい者との交流
- 近隣幼稚園・保育園との交流

**令和元年度の学力調査等の分析より**

**「全国学力・学習状況調査」H31.4**

- 国語においては平均が全国と東京都より高い。国語は、「話すこと・聞くこと」「読むこと」の力は概ね定着している。書く力を高める必要がある。算数は概ね平均である。問題解決の記述力を高めたい。また、個別に支援し確実に技能を定着させる必要がある。

**「児童の学力向上を図るための調査」R1.7**

- 4教科の正答率全てが東京都より高い。算数は、昨年度より13.3%増加した。国語・社会・算数の知識力は、教科の中でも高い。一方、「思考・判断・表現」の領域がやや低い。理科の技能は高いが、思考・知識力との差が約10%ある。1単位時間の中でじっくり考える時間と多様な考えを学び合える活動を確保した授業展開を今後も行っていく必要がある。

**道徳教育の指導の重点**

- よりよく生きるため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習をする。
- 社会や集団との関わりを重点とし、自己を様々な社会集団との関わりにおいて捉え、社会の形成者として必要な道徳性を養う。

**外国語活動の指導の重点**

- 外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成する。

**総合的な学習の時間**

- 探究的な見方・考え方を働かせ、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質や能力を育成する。
- 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

**特別活動の指導の重点**

- 集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組む態度を育てる。
- 自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

**生活指導の重点**

- 学校全体で生活ルールの徹底し、基本的な生活習慣を身に付けさせ、児童の規範意識を育てる。
- あいさつ運動等を実施し、場に応じたあいさつや適切な言葉遣いができる力を身に付けさせ、自他を大切にすることを養う。
- 児童理解・問題把握に努め、いじめや不登校等の課題解決に向けて具体的に検討し、児童のサポート体制を構築する。
- 互いに相手の立場や気持ちを考え、共に助け合う活動を重視し、「心の東京革命」の趣旨を活かした社会貢献活動の心を育成する。
- 「情報モラル教室」「薬物乱用防止教室」「セーフティ教室」や「地域安全マップづくり」を実施し、児童に危険回避能力を身に付けさせるとともに、自らの生命を大切にすることを育てる。
- 「防災ノート」を活用するなど、大地震等の災害に備えた防災教育を進め、自分で判断・行動できる力とともに助け合う心を育成する。

**進路指導の重点**

- 幼・保・小・中連携を図りながら、児童の発達段階に応じた望ましい勤労観・職業観を育む。
- 教育活動の様々な場面において、児童が自分の良さに気付き、将来の生き方や生活について前向きに考え、行動する態度を養う。

本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫 教育環境の整備	校内における研究 研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携
<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題解決型の学習を行い、話し合い活動を通して主体的に考えを深め解決する力を育成する。</li> <li>○言語活動を積極的に取り入れ、絵日記・意見文など日常的に書く活動を実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○土曜授業日の8回「ベーシックタイム」を設置し、「東京ベーシックドリル」を活用し全児童の自主的な学習態度を育てる。</li> <li>○校内掲示計画を明確にし、言語環境整備に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校内研究主題を「進んで外国語活動に取り組む児童を育てる指導の工夫」として研究授業を実践する。</li> <li>○授業改善にかかわるOJT研修を年間14回実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○評価基準(A基準、B基準)を明確にし、授業観察、ノート記述、振り返りカード等を活用して評価を行う。</li> <li>○学年やブロックで評価内容の詳細を検討し、共通理解の上で評価する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭学習(学年×10分)の定着を図る。</li> <li>○地域学校支援ボランティア等の人材を活用し、興味・関心を高め、学習意欲の向上を図る。</li> </ul>